

プログラム名

東京慈恵会医科大学眼科領域専門研修プログラム

募集定員

10名

研修期間

4年

プログラムの特徴

プログラム概要

1. 125年の臨床と研究に裏付けされた医療

明治24(1891)年4月、宮下俊吉が成医学校の眼科の初代主任教授に就任し、慈恵医大眼科学講座(教室)が開講し、同時期には東京慈恵医院にも眼科部が設置された。125年間培われてきた技術と知識を活かしながら、最先端の医療を追求する姿勢を常に持ち続けることが当教室の理念である。専攻医として入局した若手医師にもこの伝統を受け継いで活躍してもらえよう指導を行う。

2. 眼科の各分野に専門家を有する。

当教室では、眼科6領域である、角結膜、緑内障、白内障、網膜硝子体・ぶどう膜、屈折矯正・弱視・斜視、神経眼科・眼窩・眼付属器のそれぞれに専門家が在籍している。専門研修基幹施設では、12の専門外来を設置しており(網膜硝子体、未熟児・小児眼科、ぶどう膜炎、角膜、視覚、緑内障、白内障、涙道、眼形成、黄斑、神経眼科、ロービジョン)、専門研修連携施設にもそれぞれの専門を活かした指導を行える指導医を派遣している。従って、どの分野においても偏りなく広く深く最新医療を学ぶことができる。

3. 多くの症例を経験することで即戦力のある専門医を育成する。

専門研修基幹施設および専門研修連携施設において十分な外来症例、手術件数を経験可能であり、到達目標を大きく上回ることが可能である。研修修了時には基本的疾患の治療に関して独り立ちしていることが可能となるカリキュラムである。

4. 多彩な関連研修施設を有し、地域医療に貢献できる。

当教室は専門研修基幹施設である東京慈恵会医科大学附属病院(東京)の他に1都3県に広がる関連 9施設を有する。これらは東京都にとどまらず、千葉県、神奈川県、栃木県に広がり、全て地方の中堅以上の中核病院である。これらの施設に、当教室の医局員37名の医師が派遣されている。この多彩な現場を活かし、専門研修基幹施設だけでは経験が不足しがちな初期の一般的な疾患や眼科救急医療、各地域特有の医療事情など幅広く研修を行える場を提供する。大学附属病院での最先端の専門的診療経験と地域中核病院での即戦力となる臨床経験によって、眼科専門医を育てることが当プログラムの目指すところである。

5. 多くの仲間と切磋琢磨できる。

当教室には当大学卒業生以外にも全国から毎年5名前後が入局している。出身大学も様々である。過去10年間の入局者は40名であり、その内訳は、東京慈恵会医科大学出身者22名、他大学出身者18名、うち男性20名、女性20名であった。このように色々な経歴の仲間とともに、お互い切磋琢磨しながら眼科専門医を目指して研修している。

6. 学術面での指導体制

当教室では、眼科内に基礎研究が可能な研究室を有し、大学院生が在籍している。大学院生を中心に基礎研究指導や国内外への留学、臨床研究指導を行っている。また他大学と協力して多くの基礎研究や臨床研究を行っている。

この研修プログラムは、日本専門医機構が定めた専門研修施設の医療設備基準をすべて満たしており、日本専門医機構に承認されている。定められた研修達成目標は4年間の研修修了時に全て達成される。研修中の評価は施設ごとの指導管理責任者、指導医、専攻医が行い、最終評価をプログラム責任者が行う。4年間の研修中に規定された学会で2回以上の発表を行い、また筆頭演者として学術雑誌に1編以上の論文執筆を行う。